

平成 30 年度サービス第三者評価結果（公益社団法人 全国有料老人ホーム協会）

法人名	医療法人社団芙蓉会	ホーム名	芙蓉ミオ・ファミリア町田	ID	3014
	評価機関	株式会社日本ケアシステムズ	評価日	2019. 1. 19	

スケールNo.	自己評価	機関評価	スケールNo.	自己評価	機関評価	スケールNo.	自己評価	機関評価
1.1.1	A	A	2.3.3	A	A	6.1.2	A	A
1.1.2	A	A	2.3.4	A	A	6.1.3	A	A
1.1.3	A	A	2.3.5	A	A	6.2.1	A	A
1.1.4	B	B	2.3.6	B	A	6.2.2	A	A
1.2.1	A	A	2.3.7	A	A	6.2.3	A	A
1.2.2	A	A	2.3.8	A	A	6.2.4	A	A
1.2.3	A	A	2.3.9	A	A	6.2.5	A	A
1.3.1	A	A	2.3.10	A	A	6.2.6	A	A
1.3.2	A	A	2.3.11	A	A	6.2.7	A	A
1.3.3	A	A	2.4.1	A	A	6.2.8	A	A
1.4.1	A	A	2.4.2	A	A	6.2.9	B	B
1.4.2	A	A	2.4.3	A	A	6.3.1	A	A
1.4.3	A	A	2.4.4	A	A	6.3.2	A	A
1.4.4	A	A	2.4.5	A	A	6.3.3	C	C
1.4.5	A	A	2.4.6	A	A	7.1.1	A	A
1.4.6	A	A	3.1.1	A	A	7.1.2	A	A
1.4.7	A	A	3.1.2	A	A	7.2.1	A	A
1.4.8	A	A	3.1.3	B	B	7.3.1	B	A
1.5.1	A	A	3.1.4	A	A	7.3.2	A	A
1.5.2	A	A	3.1.5	非該当	非該当	7.3.3	A	A
1.5.3	A	B	3.1.6	A	A	7.3.4	A	A
2.1.1	A	A	3.1.7	A	A	7.4.1	A	A
2.1.2	B	B	4.1.1	A	A	7.4.2	A	A
2.2.1	A	A	4.1.2	B	B	7.4.3	A	A
2.2.2	A	A	4.1.3	A	A	7.4.4	A	A
2.2.3	A	A	4.1.4	A	A	7.4.5	A	A
2.2.4	A	A	4.2.1	A	A	7.5.1	A	A
2.2.5	B	B	4.2.2	A	A	7.5.2	A	A
2.2.6	A	A	5.1.1	B	B	7.5.3	A	A
2.2.7	A	A	5.1.2	A	A	7.5.4	A	A
2.2.8	A	A	5.2.1	A	A	7.5.5	A	A
2.2.9	A	A	5.2.2	A	A	7.5.6	B	B
2.2.10	A	A	5.2.3	A	A	7.5.7	A	A
2.2.11	A	A	5.2.4	A	A	7.6.1	A	A
2.3.1	A	A	5.2.5	A	A	7.6.2	A	A
2.3.2	B	B	6.1.1	A	A	7.6.3	A	A

## 評価機関所見

◆優れた取り組みと思われる点	
スケルNo.	所 見
1-4-2	年2回（4月、10月）人事考課表に従って面談を実施し、1次考課と2次考課を行い本部にて決定する仕組みとなっている。キャリアパス、考課方法について記したマニュアルも用意されており、考課が基準に沿って適切に行われるようにしている。また、考課の結果は賞与に反映されるとともに、表彰制度（理事長賞＝高得点、優秀賞＝前回考課よりも上がり幅が大きい、新人賞、特別賞）の選定基準にもなっている。人事考課制度の適切な運用によって、職員のモチベーションの向上に寄与していることがうかがえる。
1-2-1	年間の内部研修のタイトルが決まっており、そのうちコンプライアンスについては年1回、パートを含む全職員が参加するものとしてモラル向上に取り組んでいる。また、コンプライアンス会議は毎月行われており、全体会議の議事録と合わせ職員の名前の入った既読チェックに日付を入れて確認をするなど、全職員への周知を徹底している。充実した内部研修に加え、外部研修参加者は内部研修にフィードバックする取り組みを行っている。資格取得制度の充実しており、離職防止や職場復帰などにもつながっている。充実した研修制度によって、質の高いサービス提供につなげている。
6-2-1	アセスメント、ケアプラン、ケース記録、モニタリングなどケアマネジメントは適切に実施されており、特に毎月のモニタリングによって適宜ケアプランを見直す仕組みが整っている。また、ケアマネジャーを中心に、介護士、看護師、栄養士、機能訓練指導員などが日常的に申し送り、カンファレンス、サービス担当者会議を通じて連携を図っている。さらに、出来る限り家族と一緒にケアプランの作成や見直しを実施することにしており、多くの家族にケアカンファレンスに参加してもらうよう努めている。
7-6-3	服薬に関する管理や確認は服薬準備マニュアルを作成し、ダブルチェックを原則として誤薬防止に取り組んでいる。また、利用者個人の服薬手順書を作成し誤薬防止に努めている。薬を手にとった時は再度薬と利用者が一致しているか、名前を言って、声出し確認を行っている。施設見学を行った際にも、マニュアルに沿って適切な服薬確認がなされていることが見受けられた。

◆さらに取り組むことで、より質の向上が可能と考えられる点	
スケルNo.	所 見
1-1-4	法人の運営会議において全体の執行予算枠などが発表され、それらに基づいて単年度事業計画を策定している。単年度事業の実施状況については事業報告書で総括を行い、達成状況を確認して次年度計画に反映される仕組みも整っている。また、法人としての中長期計画は策定されていることを踏まえ、施設運営の報告制を示唆する意味においても施設としての中長期の事業計画を策定することが望まれる。
1-5-3	虐待防止、苦情処理体制についてはマニュアルが整備され、ハラスメントに関してもスタッフステーションに掲示されている。また、研修計画も策定されており定期的に全職員に対して高齢者虐待や、身体拘束について研修が行われ職員への周知徹底が進められている。現在は施設長が中心となって全職員体制で進めているとのことであるが、研修資料に示してあるようにチームを構成して、具体的に細かく進めていくことが求められる。
6-2-8	施設では家族との連携を図ることに努めており、入居者の写真を添えて月1回郵送したり、各種の案内（介護保険法の改定などの要な案件も含む）を伝えたりして、連携を図ることに努めている。ただし、夏祭り、敬老会などへの行事や毎月の誕生会への家族参加が少ないことから、早めに予定を伝えるなど家族が参加しやすくなるような工夫について検討されたい。